

理科（物理基礎）学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 日 時 令和3年○月○日（○）第○限（○○：○○～○○：○○）
 2 ク ラ ス 1年○組（40名）
 3 場 所 1年○組HR
 4 使用教材 教科書：高等学校物理基礎（数研出版）
 副教材：フォトサイエンス物理図録（数研出版）、自作プリント
 5 単 元 第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 3 運動の法則
 6 単元の目標

- (1) 運動の法則について、日常生活や社会と関連付けながら、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。【知識・技能】
 (2) 運動の法則について、観察、実験などを通じて探究し、運動の法則における規則性や関係性を見いだして表現すること。【思考・判断・表現】
 (3) 運動の法則について、主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする事。【主体的に学習に取り組む態度】

7 本時の指導と評価の計画

(1) 単元内での位置

第1編 運動とエネルギー

第2章 運動の法則

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 力とそのはたらき | 1時間 |
| 2 力のつりあい | 3時間 |
| 3 運動の法則 | 4時間（本時3時間／4時間） |
| 4 摩擦を受ける運動 | 2時間 |
| 5 液体や気体から受ける力 | 1時間 |

(2) 重点目標と評価規準 【主体的に学習に取り組む態度】

課題への取組…運動方程式の応用（資料①）について、一人またはグループで取り組む。応用であることを鑑み、問題を解く技術や表現等の習得ではなく、自ら問題を解決しようとする姿勢を養うことを重点目標とする。机間指導等、行動の観察に基づく教員による評価（資料②）と、「簡易版振り返りシート（資料③）」による生徒の自己評価の二つの観点から総合的に評価を行う。

※資料①～③については、ワークシート等を参照のこと。

(3) 本時の展開

学習場面	学習活動	指導上の留意点	具体的な評価規準と評価方法
導 入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題と「簡易版振り返りシート」を確認する。 課題の趣旨を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の目標及びタイムラインを明言し、周知徹底する。 	
展 開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> 課題に取り組む（20～35分）。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組むことができるよう声掛けを行い、生徒の意欲を高める。 適宜アドバイスや声掛けを行い、継続して取り組めるようにする。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 解説（0～15分）を聞きながら自分の考えを整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 2物体を一つの物体として考えた場合、どのような結果につながるか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 取組状況を見て、終了時間を延ばすなど柔軟に実施する。 取組状況を見て、解説の程度を調整する。解説しきれなかった分は次の授業内で行うか模範解答を配るなどして対応する。 	教員による評価 [資料②]
まとめ （5分）	<ul style="list-style-type: none"> 「簡易版振り返りシート」の記入と提出。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の取組について振り返りを行うとともに、残った課題への取組について指示をする。 	生徒自身による評価 [資料①]

(4) 評価基準 【主体的に学習に取り組む態度】の評価

A 教員による評価と生徒による評価の両方がAである。

B A, C以外の場合。

C 教員による評価と生徒による評価の両方がCである。

※Cの場合の改善策：導入方法の工夫・課題の難度や出題数の見直し・解説の分かりやすさ・日頃からの声かけ等を通じて、苦手意識のある生徒や課題解決に消極的な生徒が少しでも興味・関心を持ち、主体的に学ぶ意欲がもてるよう授業の精度を上げる努力を行う。

8 授業者の振り返りと授業改善に向けて

9 御高評